

校長室だより

共学共高

第
26
号

令和4年5月27日発行

発行責任者

白梅学園高等学校長

武内 彰

全校行事～体育祭開催される～

5月25日（水）今年度最初の全校行事となる体育祭の朝を迎えた。幸いなことに青空の間には雲があり、日差しが厳しくないのは生徒たちにとってありがたい環境である。

開会式では生徒会長 I さんによる開会宣言、校長挨拶と続き、体育委員長 T さんによる選手宣誓がなされた。体育副委員長 I さんによる競技諸注意では、「応援は拍手のみ」と念押しがあった。昨年に引き続きコロナ禍での体育祭であるから致し方ない。終わりに副校長先生から、「蜜を回避するため、保護者の皆様にご参加いただけないので、ビデオ撮影を行い、後日限定配信する」ことが伝えられる。本来ならば、本部側のテント先はすべて保護者の方々に埋め尽くされるという。昨年、そして今年とそこは3年生たちの席となった。

プログラム1番、「準備体操」である。昨年、私はラジオ体操とは全く異なる、ダンスの要素が盛り沢山の特別な準備体操に戸惑い、生徒たちについていけなかったが、今年はほぼ完璧にこなせた。（リベンジ達成である）



以降、「100m」「70m ハードル」と続く。女子高の競技・演技としてはなかなかハードな種目である。陸上競技部の生徒も走っているので、ずば抜けて速い生徒もいれば、私より多少速いという生徒もいる。しかし、どの生徒も真剣な走りである。学年ごとのクラス対抗で得点が入っていくので、自クラス色の鉢巻きをした生徒が走っているときには、当該クラスの応援は盛り上がっている。もちろん、声援ではなく拍手のみである。（笑）体育の授業でも使用しているハードルは、てっぺんのバー中央部に切れ目が入っていて、足が当たっても選手が転ばないように工夫されている。私が中学生の時には、木製のバーで、そこに足をぶ

つけると痛いし、転倒することも珍しくなかったが、器具も進歩しているものだ。



2年生の「台風の日」。3人で棒を持ち、走りながらコーンの周りを台風のように回りながら走る抜ける団体競技である。コーンを回るときには内側の生徒と外側の生徒とでは、身体にかかる遠心力が異なる。そのあたりを考えながら回っている姿が印象的であった。

3年生の「障害物リレー」は、なかなか盛り上がる競技だ。単に走るのではなく、途中に竹馬や玉入れもある。早くゴールした順に、グラウンドの中央に散りばめられた段ボール箱を拾い集め、自クラスの担任の先生の似顔絵が完成したら競技終了である。この似顔絵が何とも言えない。担任の先生の特徴をよくとらえているのだ。体育祭終了後は、各教室前のスペースにしばらくの間、展示されているのも本校の伝統だ。



1年生のクラス別競技は「大縄跳び」である。「せいの」と縄の回し手の掛け声によって始まる。練習の時よりも、かなり多くの回数を跳んでいるクラスが多かったような気がする。本番に強いのはいいことだ。

「部活対抗リレー」は文化部と運動部とに分かれて2レース行われる。演劇部は毎年奇抜な衣装で楽しませてくれるし、調理部のエプロン姿も可愛らしい。吹奏楽部もパーカッションの一種なのか、鐘の音を鳴らしながら皆を盛り上げてくれるエンターテイナーだ。転じて運動部は、真剣勝負である。見どころは陸上競技部とハンドボール部の熾烈な争いだが、今年はデッドヒートと言うよりは、陸上競技部の方が終始リードする展開であった。私が顧問を務めるバドミントン部も善戦している。中学時代には陸上部だった生徒もいて、なかなか速かった。



バトン部とダンス部の演技は、毎年華があり、全校生徒たちも注目している。私の隣にいた3年3組の生徒たちからは、バトン部に対しては「可愛いー」、ダンス部に対しては「○○さん、かっこいいー」という心の中での声援が投げかけられていた。バトン部もダンス部も大人数の部活動だが、今回は3年生だけが演技をしているようだ。演技後に涙を流している3年生もいた。これで部活動を引退、一区切りなのだろう。



学年ごとのクラス対抗リレーも見応えがあった。クラスごとに人数の差があるので、全員走るクラスとそうでないクラスとに分かれるのだが、どの生徒も一所懸命である。バトンの受け渡しも結構研究しているのだろうか、上手である。後で2年生の生徒から聞いたことだが、昨年はこの種目で学年最下位だったが、今年は学年4位になったとのこと。「来年は、3位入賞を目指せるね」と、私が応じる。

締めは、3年生進学コースの生徒たちによる「ダンス演技」である。一人一人が青い布をもって、集団演技の良さを活かした素敵なダンスを披露してくれた。私の隣にいる3年3組の生徒たちからは、時折「おーっ」という心からの感嘆の声が漏れていた。

やはり、学校行事は生徒たちの集団性や人間性が育つ場だと感じる。私は開会式のあいさつで「新たに1年生を迎え、2年生、3年生と共に白梅の一員として、一体感を共有していくのがこの体育祭だと感じている。一人一人が競技や演技に臨み、そして仲間の姿を見て、白梅の一員であることに喜びや誇りを持ってくれたら幸いです」と伝えた。そういう日となってくれたことを願わずにはいられない。



(共学共高とは：本校のディプロマポリシー（育てたい生徒像）の一つで、「共に学び、共に高め合う」生徒の姿を表す)